

2024 年度

ありがっさまポイント実証事業
結果報告



令和6年12月

奄美市デジタル戦略課

目次

第1章 実証事業の概要と結果の概要.....	3
1. ありがとうさまポイント実証事業の概要	3
1-1. 実証事業の目的	3
1-2. 実証事業の内容	4
2. 実証結果概要	9
2-1. 市民における効果と課題.....	9
2-2. ポイント付与／利用窓口・施設における効果と課題.....	12
2-3. 庁内各部における効果と課題	14
3. 実証事業結果の総括	16
第2章 実証事業の詳細データと地域通貨実現における課題.....	17
4. モニター参加・スマホアプリ利用状況・モニターの声	17
4-1. モニター参加者・スマホアプリ登録者数推移	17
4-2. ポイント付与結果	19
4-3. ポイント利用結果	20
4-4. モニターの声	21
5. ポイント付与／利用窓口・施設の取り扱い結果.....	29
5-1. ポイント付与結果	29
5-2. 利用場所別ポイント利用結果.....	31
5-3. 加盟店の声	32
6. 庁内各部の実証対応結果.....	33
6-1. 施策担当部門の実証参加結果	33
6-2. その他庁内の課題・意見 総務部協議結果から抜粋	34
7. 金銭授受業務デジタル化の注意点と実現の方向性	35
7-1. 金銭取扱業務デジタル化について	35
7-2. 共通ポイントによる課題と安全な地域通貨の実現	36

1 - 2. 実証事業の内容

(1) 検証方法

モニターが市の施策に参加したり、クイズやアンケートで行政や施策に関する知見を深めたりして貯めたポイントを市の施設などで利用することで、施策の効果と市民の利便性向上、関連業務負担軽減の効果を検証する。

(2) モニター募集について

応募期間：2024年4月8日（月曜日）～2024年5月6日（月曜日）

募集人数：480名 → 最終モニター数：536名

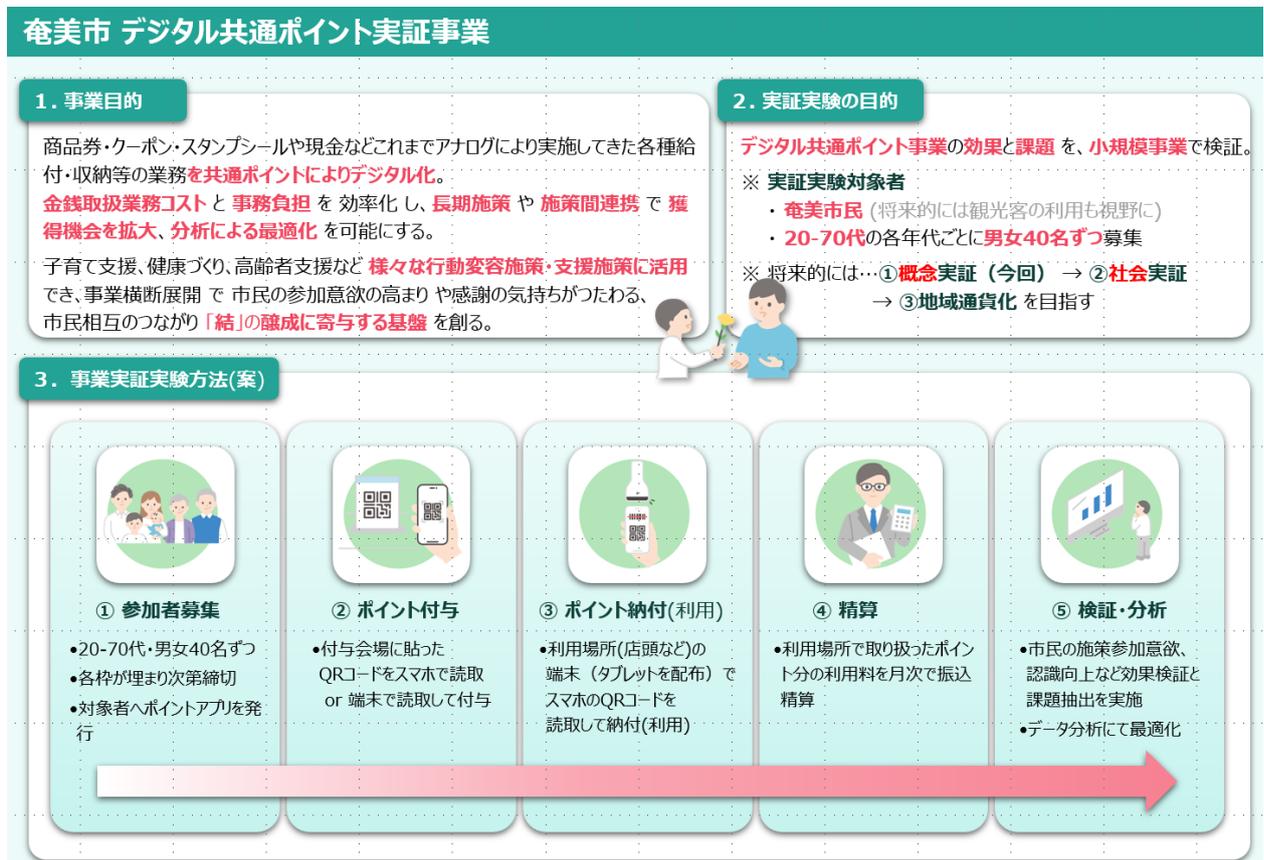
募集方法：奄美市公式 LINE、全戸配布の奄美市だよりへの募集チラシ封入/利用関係者への告知

(3) 実証期間

ポイント付与期間：2024年6月1日（土曜日）～2024年8月31日（土曜日）まで

ポイント利用可能期間：2024年6月1日（土曜日）～2024年9月30日（月曜日）まで

〈図表 - 2 実証事業の内容〉



(4) スマホアプリの活用

実証実験は、コストを最小限に抑え、速やかに事業を開始できるよう、既存のスマートフォンアプリを活用し、ポイントを貯めるアプリとして「健康マイレージアプリ」、ポイントを使うアプリとして「地域 Pay」アプリを使用しました。ポイントを貯める場所とポイントを使う場所に図表-3のポップを設置して、それぞれのスマホアプリでポップのQRコードを読み取ることでポイント付与や利用ができます。

〈図表－3 共通ポイント取扱窓口に設置したポップ〉



(5) ポイント付与施策とポイント利用場所の選定

市役所各部や関連施設において、現金の取り扱いが煩雑である業務や施策、共通ポイントによって市民参加や実施効果を高めることが期待できる施策、業務効率化や付随コストの削減が期待できる業務を募集し、関連部門と複数回のワークショップやヒアリングを行い、共通ポイントを付与する施策やポイント利用方法、およびその期待効果を整理しました。

〈図表－4 実証事業で施策実施効果や業務効率化を期待する業務と共通ポイント活用方法〉

施策関連部署		施策・効率化業務	共通ポイント活用方法
市民環境部	環境対策課	・市民の清掃意識向上 ・ゴミ分別方法問合せ対応削減	・海岸清掃参加でポイント付与 ・ゴミ出しクイズでポイント付与
	国保年金課	・国保者の健康向上	・健診を受けたらポイント付与 ・ウォーキング、運動施設利用でポイント付与 ・健康クイズに答えてポイント付与
保健福祉部	健康増進課	・健診受診率の向上 ・健康づくりの習慣化 ・健康知識の向上	
	高齢者福祉課	・外出促進 ・運転免許返納	
教育委員会事務局	こども未来課	・子育て支援 ・郷土教育、ふるさと学習	・民間の学用品・玩具販売店で利用 ・博物館、資料館でポイント付与&利用 ・運動施設、プールでポイント付与&利用 ・民間スポーツジムをポイントで利用可 ・市民コンサート観覧チケットでポイント利用
	学び・スポーツ推進課	・文化、芸術、スポーツ活動支援	
商工観光情報部	紬観光課	・地元産業提携強化	・大島紬購入でポイント付与
	デジタル戦略課	・デジタルリテラシー向上	・デジタルクイズに答えてポイント付与
	商工政策課	・商工振興 ・市民の交通の確保	・産直施設、カフェ、レストランでポイント利用 ・ポイントでバス回数券購入可

(6) 説明会の実施

5月14日と15日に、名瀬、住用、笠利の各地区において、ポイント付与窓口やポイント利用窓口のご担当者様方にお集まりいただき、加盟店説明会を実施しました。各会場とも約10名がご参加くださり、具体的な取扱い方法や注意点などについて傾聴いただき、活発な質問を頂戴して理解を深めていただきました。

5月31日と6月1日にはアマホーム PLAZA にて、夜間を含めた4つの時間帯を設定してモニター説明会を実施。ご夫婦6組を含めて主に50代以上の方々約20名が参加され、その場でスマホアプリを設定していただいたり、アプリの利用をシミュレーションしていただいたりなど、2つのアプリの使い方をご説明しました。

(7) ポイントが付与施策（ポイントが貯まる取り組みと付与ポイント数）

〈図表－5 ポイントが貯まる取り組み一覧表〉

No.	カテゴリ	地域	付与メニュー	住所	付与条件	付与ポイント数
1	その他	-	モニター参加	-	参加	1,000
2	クイズ・アンケート	-	モニター向けアンケート回答(開始時)	-	アンケートに回答(1回)	500
3	クイズ・アンケート	-	モニター向けアンケート回答(終了後)	-	終了時にアンケートに回答(1回)	1,000
4	クイズ・アンケート	-	健康や奄美市に関するクイズ	-	1回回答(毎週2ジャンル出題・全24回)	100
5	ウォーキング	-	ウォーキング歩数1 (歩数に変更がありました)	-	4,000歩以上/日*指定の健康アプリにて計測した歩数が対象	10
6	ウォーキング	-	ウォーキング歩数2 (歩数に変更がありました)	-	6,000歩以上/日*指定の健康アプリにて計測した歩数が対象	20
7	ウォーキング	-	ウォーキング歩数3 (歩数に変更がありました)	-	8,000歩以上/日*指定の健康アプリにて計測した歩数が対象	30
8	健診・検診	-	歯周病検診	-	受診1回/本市の受診票利用のみ	200
9	健診・検診	-	特定(長寿)健康診査	-	受診1回/本市の受診票利用のみ	400
10	健診・検診	-	胃がん検診	-	受診1回/本市の集団検診(三人間ドック検診)を受診した方のみ	200
11	健診・検診	-	大腸がん検診	-	〃	200
12	健診・検診	-	腹部超音波検診	-	〃	200
13	健診・検診	-	肺がん検診	-	〃	200
14	健診・検診	-	肝炎ウイルス検診	-	〃	200
15	健診・検診	-	前立腺がん検診	-	〃	200
16	健診・検診	-	骨粗しょう症検診	-	〃	200
17	健診・検診	-	子宮頸がん検診	-	〃	200
18	健診・検診	-	乳がん検診	-	〃	200
19	グラウンドゴルフ	住用	マンガローパーク	住用町石原 478	ゴルフ利用 1回/日	30
20	グラウンドゴルフ	笠利	あやまる岬多目的広場	笠利町須野地内	ゴルフ利用 1回/日	30
21	スポーツジム	名瀬	PRIDE	名瀬塩浜町 5-26	施設利用 1回/日	50
22	スポーツジム	名瀬	アクアクラブ	名瀬鳩浜町 8	施設利用 1回/日	50
23	運動施設	名瀬	奄美市名瀬運動公園	名瀬小宿字砂田 2878-1	運動施設利用 1回/日	50
24	運動施設	笠利	奄美市太陽が丘総合運動公園	笠利町万屋 1164-1	体育施設利用 1回/日	50
25	プール	名瀬	奄美市名瀬運動公園(プール)	名瀬小宿字砂田 2878-1	プール利用 1回/日	50
26	プール	名瀬	名瀬中学校屋内温水プール	名瀬真名津町 14-1	屋内プール利用 1回/日	50
27	プール	笠利	奄美市笠利 B&G 海洋センター	笠利町万屋 1148-1	室内温水プール 1回/日	50
28	温浴施設	住用	奄美体験交流館(入浴施設)	住用町見里 1084-1	入浴施設利用 1回/日	50
29	温浴施設	笠利	ふれ愛の湯(ふれ愛の郷)	笠利町中金久 45	温浴施設利用 1回/日	50
30	博物館・資料館	名瀬	奄美市立奄美博物館	名瀬長浜町 517	入館 1回/日	100
31	博物館・資料館	笠利	奄美市歴史民俗資料館	笠利町大字須野 670	入館 1回/日	100
32	博物館・資料館	笠利	宇宿貝塚史跡公園	笠利町大字宇宿 2301	入館 1回/日	100
33	その他施設	名瀬	奄美市老人福祉会館	名瀬大字金久 2349 番地	施設利用 1回/日	50
34	その他施設	住用	木工工芸みどりの里(奄美市木工工芸センター)	住用町摺勝 555-10	施設利用 1回/日	100
35	清掃活動	名瀬	大浜海岸清掃(谷木材商行主催)	名瀬小宿大浜 701-1	谷木材商行が月1回開催する、海岸清掃イベントに参加(全3回)	500
36	その他	-	本場奄美大島紬購入	-	奄美市の「本場奄美大島紬購入費助成制度」を利用して購入(1回)	3,000
37	その他	-	免許返納	-	70歳以上の返納証明書取得者、運転経歴証明書保有者の方が対象	3,000

(7) ポイント利用場所 (ポイントが使える施設・店舗)

〈図表－6 ポイントが使える施設・店舗一覧表〉

No.	カテゴリ	地域	施設・店舗名	住所	備考・注意事項
1	運動施設	笠利	あやまる岬多目的広場 (グラウンドゴルフ場)	笠利町須野地内	
2	運動施設	住用	マングローブパークグラウンドゴルフ	住用町石原 478	
3	運動施設	名瀬	奄美市名瀬運動公園(運動施設)	名瀬小宿字砂田 2878-1	
4	運動施設	名瀬	奄美市名瀬運動公園(プール)	名瀬小宿字砂田 2878-1	
5	運動施設	名瀬	奄美市名瀬総合体育館	名瀬小宿字砂田 2878-1	
6	運動施設	名瀬	奄美市立名瀬中学校屋内プール	名瀬真名津町 14-1	
7	運動施設	笠利	奄美市笠利 B&G 海洋センター	笠利町万屋 1148-1	
8	運動施設	笠利	奄美市太陽が丘体育館	笠利町万屋 1164-1	
9	温浴施設	住用	奄美体験交流館(入浴)	住用町見里 1084-1	入浴のみ
10	温浴施設	笠利	ふれ愛の湯	笠利町中金久 45	ふれ愛の郷内
11	スポーツジム	名瀬	PRIDE	名瀬塩浜町 5-26 メイスイビル 1F	
12	スポーツジム	名瀬	アクアクラブ	名瀬鳩浜町 8 番地 (益田医院横)	
13	カフェ・レストラン	名瀬	奄美市役所 2 階カフェ 大ちゃん	名瀬幸町 25-8 市役所内 2F	
14	カフェ・レストラン	笠利	みしよらんカフェ	笠利町須野 682	
15	カフェ・レストラン	住用	レストラン マングローブ	住用町石原 478	マングローブパーク内レストラン
16	産直施設	住用	三太郎の里	住用町和瀬 124	
17	産直施設	笠利	味の郷かさり	笠利町大字節田 1717-1	
18	その他施設	名瀬	アマホーム PLAZA	名瀬柳町 2-1	施設利用料
19	その他施設	名瀬	奄美市老人福祉会館	名瀬大字金久 2349	
20	その他施設	住用	木工工芸みどりの里 (奄美市木工工芸センター)	住用町摺勝 555-10	
21	博物館・資料館	名瀬	奄美市立奄美博物館	名瀬長浜町 517	観覧料
22	博物館・資料館	笠利	奄美市歴史民俗資料館	笠利町大字須野 670	観覧料
23	博物館・資料館	笠利	宇宿貝塚史跡公園	笠利町大字宇宿 2301	観覧料
24	施設内売店	名瀬	奄美海洋展示館 売店	名瀬大字小宿 701-1	
25	施設内売店	住用	マングローブパーク内 売店	住用町石原 478	マングローブパーク内売店
26	文房具店	名瀬	サンサンランド	名瀬鳩浜町 339	
27	文房具店	名瀬	東京堂	名瀬末広町 7-17	
28	文房具店	名瀬	のせ文具	名瀬末広町 2-2	
29	その他	名瀬	しまバス・バス回数券	名瀬伊津部町 9-23	しまバス本社にて購入する場合のみポイント利用可能
30	その他	名瀬	みやまふれあいコンサート・観覧チケット	名瀬幸町 25-8 市役所内 6F(学び・スポーツ推進課)	学び・スポーツ推進課にて購入する場合のみポイント利用可能
31	寄附	-	寄附・奄美まつり協賛会	-	
32	寄附	-	寄附・奄美市 PTA 連絡協議会	-	
33	寄附	-	寄附・奄美市子ども会育成連合会	-	

各利用場所でモニターが貯めたポイントを 1 ポイント 1 円として利用でき、ポイント利用可能期間が終了した時点で残ったポイントは、モニターが実証参加申し込み時に指定した寄付先に寄付します。

2. 実証結果概要

2-1. 市民における効果と課題

(1) 市民の参加状況

480名のモニター枠に対して、最終的に536名が参加。今回の実証事業では、奄美市民(R6.5月：40,544人)の1.3%が参加していることとなります。

(2) 市民の参加目的と参加結果（初回アンケートと終了アンケートのサマリー：定量的評価）

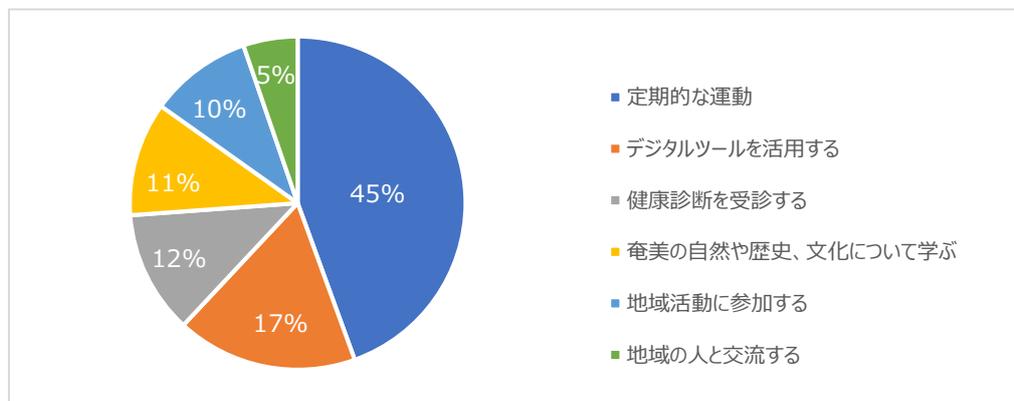
実証事業では、モニター応募時に実証事業参加目的、ポイント付与終了直前に実証に参加した感想をお聞きしました。

- モニター応募者の45%が「定期的な運動」、17%が「デジタルツールの活用」、12%が「健康診断を受診する」、11%が「奄美の自然や歴史、文化の学習」、10%が「地域活動への参加」を習慣化したいと回答。
- 実証事業の結果、「健康・地域活動・自然文化を気にかけるようになった（40%）」、「市の取り組みを知る機会になった（36%）」、「普段行かない施設・催しに行く機会が増えた（13%）」と、合計約89%で行動の変容がみられ、今回の実証事業が参加者の行動を変えるきっかけになったと言えます。

上記結果を表すアンケート結果を数点、以下に抜粋しました。

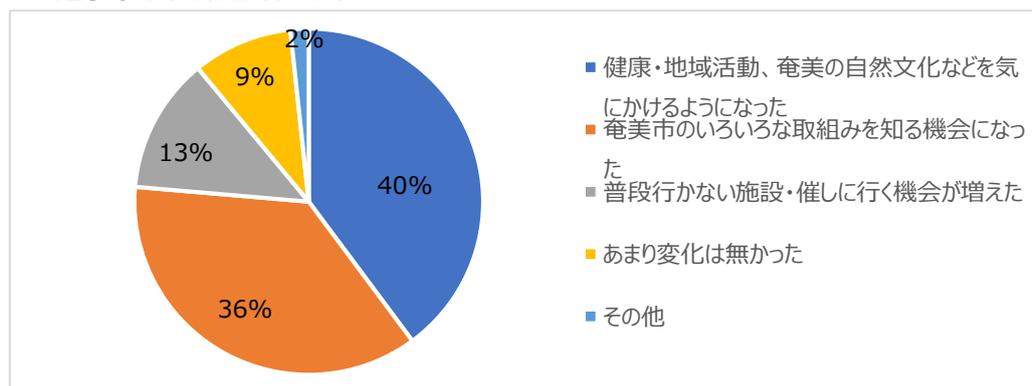
〈図表-7 初回アンケート結果（抜粋）〉

●実証事業参加目的（習慣化したいこと）

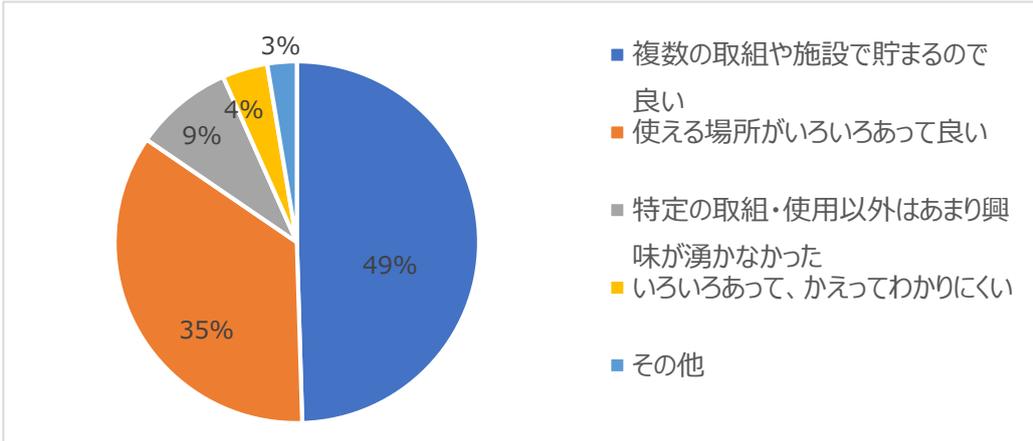


〈図表-8 終了アンケート結果（抜粋）〉

●実証事業で感じた生活の変化



● 複数施策共通ポイントの感想



(3) 市民の声から導き出される結論（定性的評価）

終了アンケートの自由意見では、健康増進、地域貢献、奄美の自然・文化・歴史を知るなど多様な施策に関して好意的な意見が多く寄せられました。

【好意的な意見】

- ・運動不足だったが、今回の事業で意識して運動をする機会が増えた。
- ・ポイントを貯めることが運動の励みになった。
- ・クイズを通じて知識が深まり、楽しく参加できた。
- ・地元の自然や文化を再発見できた。
- ・家族で取り組むことで話題が増え、家族間のコミュニケーションが深まった。
- ・自由意見欄に「また参加したい」「継続して欲しい」との意見が約 30 件、「いろいろな施策で共通のポイントが良い」との意見が 3 件、寄せられた。

【否定的な意見】

- ・アプリの設定や同期がうまくいかず、操作が難しい。スマホの機種によってはアプリが正しく機能しなかった。
- ・どのようにポイントが貯まったかがわからなかった。
- ・ポイントを使える場所が限られていて不便。利用できる場所がもっと増えると良い。
- ・事業の認知度が低く、もっと広報が必要。

〈図表－9 終了アンケート 自由意見（抜粋）〉

- 普段歩数など気にしていなかったが、あともう少し歩いてポイントを貰いたい。と思い頑張って歩きました。健康の事を考える良い取り組みであった。（30 代男性）
- 最初の登録がちょっと難しく、教えてもらうまでできなくてスタートが遅れてしまいましたので、広く市民を対象を広げる場合にはより多くのデジタルに弱い人の声を拾うことが重要と思います。（40 代女性）
- 今回のポイント利用で地元の野菜や手作りの商品の素晴らしさを再認識しました。今後、地域の良さを体感できる取組や施設が増えたら幸いです。（60 代男性）

また、モニターからは「スマートフォンの操作が難しい」、「ウォーキングの歩数が正しく反映されない」などの問い合わせも入っており、スマートフォンアプリの操作性や性能に関する課題や、デジタルデバインドへの課題も指摘されています。

(4) 市民の行動について

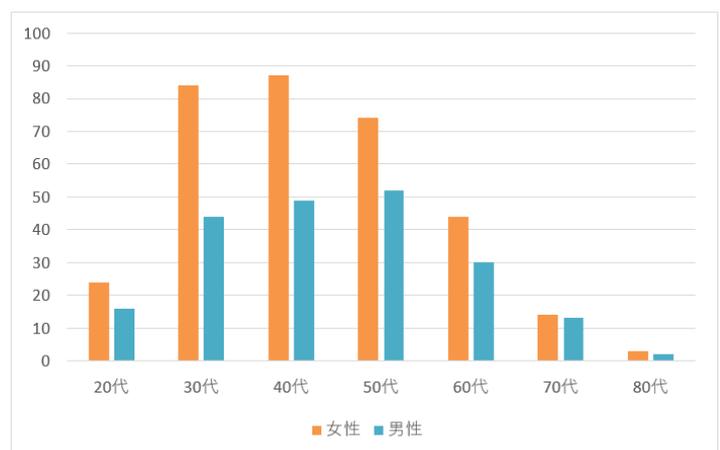
実証事業では、20～70代の男女各40人ずつを想定し、計480人の市民モニターを募集しました。結果として、20代は40名、30代は128名、40代は136名、50代は126名、60代は74名、70代以上は32名の計536名となりました。

ポイントを貯める取り組みでは、健康や奄美市に関するクイズ回答でのポイント付与率が高く(26%)、次いでウォーキング(16%)となっています。なお、モニターから、「ポイントと比べ歩数のポイントが低すぎるので、歩数でポイントを稼ごうとは思えなかった」という意見もあり、取得できるポイント数も行動に影響を与えていると思われます。

ポイントの利用については、カフェ・レストラン(35%)、文房具店(34%)、産直施設(18%)となっており、モニターからのアンケート回答にもあるように、ポイントを利用可能な施設があまりなく、半数が飲食店や文房具店に偏ったのではと推測できます。

■モニター数（追加含む）

世代	女性	男性	総計
20代	24	16	40
30代	84	44	128
40代	87	49	136
50代	74	52	126
60代	44	30	74
70代	14	13	27
80代	3	2	5
総計	330	206	536



(5) 市民における効果と課題の総括

前述の付与/利用データ分析結果および初期/終了アンケートの市民の声から、以下の効果と課題が確認できました。

- 市は部署別に施策を推進するが、市民には部署や施策を分類する意識はなく、様々な施策で共通にポイントが貯まって、施策や世代を超えてポイントを利用できる方が市政参加の活性化に寄与する。
(具体例：ポイントを貯める取り組みでは、健康推進と市の取り組みを知る機会になったとの回答が多かった一方、利用シーンにおいては子育て施策に直結するような文具店での利用が想定以上に多かった。)
- 今回の実証事業では、時間と費用をかけないよう既存のスマホアプリを活用したため、ポイント付与用と利用用の2つのアプリが必要となり、モニターの使い勝手に課題が生じた。

自由意見では好意的な意見もありましたが、計画段階で想定したモニター1人につき平均8,000ポイント、480名の総計384万ポイントのポイント付与数が、実際には総計約221万ポイントと予想を下回り、1人で12,000ポイントも貯めたモニターが居る一方で、まったくポイントを貯めていないモニターが180名存在しました。

この180名については、2つのアプリ登録の煩雑さで登録に至らなかった方やモニター参加辞退を申し出た方等も含まれています。

ほーらしゃ券のような全市民を対象とした施策とは異なり、奄美市人口の約1.3%という極めて限定的な人数のモニターに対して効果的な告知や啓蒙を行うことが難しかったといえます。

2-2. ポイント付与／利用窓口・施設における効果と課題

(1) 付与/利用窓口や施設における効果

ありがさまポイントの付与窓口と利用窓口は、実証事業の目的に照らして、市の施策への参加や、市政に関する知見の向上、教育・文化・スポーツ施設等の公共施設の利用でポイントが貯まり、同じく公共施設や当該施設にあるカフェや売店、さらに子育てや健康増進に関する民間事業者店舗でポイントが利用できるよう、各所に協力していただきました。（「図表-5 ポイントが貯まる取り組み一覧」「図表-6 ポイントが使える施設・店舗一覧表」参照）

特に注目すべき窓口の声を、下記に抜粋しました。すべてのヒアリング結果は第2章5-1および5-2をご参照ください。なお、市政に関する知見向上の効果については次節2-3をご参照ください。

〈付与/利用窓口が良かったと思う点（多かったものを抜粋）〉

- ・スマートフォンによる施策でも問題なく運用できることがわかった。
- ・モニター参加者とコミュニケーションがとれた。
- ・モニター参加者による売上が増えた。
- ・現金を持ち運ぶ心配のないキャッシュレス決済の利便性を感じた。

(2) 付与/利用窓口・施設における課題

一方、終了後のヒアリングでは課題もお聞きすることができました。多くの窓口では付与でも利用でもモニターに操作方法が説明されていましたが、一部の窓口ではモニターのスマホアプリの操作がよくわからず、モニターから質問を受けて困るケースも発生しました。すべてのヒアリング結果は、第2章4-5をご参照ください。

〈付与/利用窓口からのご意見（課題について抜粋）〉

- ・使用できる店舗が少ない。使用できる店舗を広げられたらいいと思います。
- ・利用者も問い合わせ等もゼロでした。
- ・シニアで使用される場合に少し時間がかかる。
- ・利用者、取扱件数自体少なかったです。
- ・グラウンドゴルフ利用のお客様はスマートフォンによる参加は難しいのか、利用される方は少なかったです。
- ・本実証事業の告知があまり知らない人が多く利用者も少なかったです。
- ・Wi-Fi設備などインフラを整えた状態にしてほしい。
- ・地理的な事もあり電波の状況が悪いことがあり、利用される方が時間がかかっていました。
- ・若い方の利用が少なく感じている。幅広い世代の利用に向けて改善してほしい。
- ・一過性ではなく継続することで利用者が必ず増えると考えます。
- ・次回があれば現金併用を可能にしていきたいです。

(3) 付与/利用窓口・施設における効果と課題の総括

効果：キャッシュレスの効果を感じることができ、市民とのコミュニケーションも取れた。実証に参画出来てよかった。

課題：ポイント付与と利用の仕組みがバラバラだったことで、店として運用が分かり辛かった。

2-3. 庁内各部における効果と課題

(1) 施策担当部における共通ポイント活用効果

実証に先立ち、複数の部署に、市民の参加や取り組み、知見の向上などを促進したい施策があるかを確認。候補施策のある部署でワークショップを行い、各施策について、具体的にどのような行動をした市民に何ポイントの「ありがさまポイント」を付与するのか、貯めたポイントはどこで利用できるかと施策の主旨に合うのかを協議し、図表-4の通り、対象とする施策や業務と、共通ポイントの活用方法を整理しました。

実証の結果、以下のような結果が得られました。

〈担当課が良かったと思う点（抜粋）〉

- ・スマートフォンを利用した実証実験
- ・健康ポイント事業(単体)だけでなく、他部門の施策も絡めたポイント事業の実施
- ・実証実験のポイント付与施策と、その付与ポイント数
- ・自主的な取り組みが、ポイントを生成しそれが地元施設へ還元されるのは大変有意義だと実感しました。私もいちモニターとして、利用者アンケートにも多数意見があった通り、日常で「歩く」ことを意識して過ごすことができ、運動量が向上しました。
- ・とても良い取り組みだったと思います。利用者アンケートを拝見しましたが、概ね好意的な意見だったと感じました。否定的な声は大きく聞こえてしまっていますが、改善しながら継続して行うことが重要だと思います。
- ・利用者が多かった施設はポイントのおかげで売上が伸びたと喜んでいました。

(2) 施策担当各部における共通ポイントの課題

一方で、施策参加した部署を中心に、以下の課題も抽出できました。今後、共通ポイントを実用化する際にはこれらの課題について解決する必要があります。

〈担当課から寄せられた課題（抜粋）〉

- ・現場としては言われた通りに対応をしたものの、ほとんど利用者がいなかった。実際には使用しなかったが、いちいちタブレットを使うのは面倒。各施設のインターネット端末で処理できれば良い。
- ・年配者にはハードルの高いポイント制度だったり、公平性の観点から疑問には感じます。
- ・実施中、友達や家族に勧めたり周知したりしていたが、認知度が低いように感じた。奄美市からの宣伝はもちろん、施設から市民への宣伝力も上げていけたら良い。
- ・将来的にはデジタルほーらしゃ券との統一などの検討が必要。
- ・レジ周りに奄美市発行の何種類ものQRコードがあると混乱する恐れがある。
- ・アプリ当選したが、アプリの登録せず辞退した方が108名と多く感じる。登録方法や時期等検討が必要かと思う。当選者へリマインド方法など。
- ・今回の実証では、ポイントを使うアプリと貯めるアプリの2つのアプリを使ったが、スマホアプリ操作に関する問い合わせが事務局に入った。また、両アプリが別々の会社のアプリのためデータ連携ができず、連携作業が煩雑となり、一つの業務となっていた。
- ・複数施策の担当部署や施設とのやりとりも担ったため、事務局業務が煩雑で負荷が生じた。

- ・複数部署にまたがるために予算管理や精算など通常業務以外の業務が発生しており、金銭取扱業務のデジタル化による業務効率化を実感するには至らなかった。関連部において共通ポイント利用分の精算が円滑に済む業務デジタル化も必要。

(3) 庁内各部における効果と課題の総括

今回の実証事業に参加した施策担当部署における業務量変化やヒアリング結果、行政業務観点での総括は以下となります。

アンケート結果から、地域貢献と健康増進を目指すポイント制度を用いた事業自体は好評を得ており、市民の費用負担無く、自主的な行動変容で貯めたポイントが地元施設へ還元され、一部施設の売上が増加したとの意見が事業の成果を示しています。

また、市の施設でも利用できることを試した結果、売上が伸びた施設もあり、市の「かせぐ」手段のひとつとしての効果も見受けられました。

しかしながら、施設や一部ユーザーの利用の敷居や公平性、事業の認知度向上や施設間の統一性、登録や利用の手間の軽減と事務的負担、そして業務のデジタル化や効率化などの課題と改善点も指摘されています。次回実施する場合には、これらの改善を通じて、更に多くの人々が利用者となり、地元の施設でも利益を享受できるような事業へと発展させることが求められます。

3. 実証事業結果の総括

(1) 施策の効果と課題

複数部署の施策に共通のポイント制度を用いた実証事業は、地域貢献と健康増進を促進する上で好評を得ている。モニターの市民からは「市の取組みを知れた」「奄美の歴史を学ぶ機会になった」「一元化したポイントが良い」「継続して欲しい」など、多くの好意的意見が寄せられた。また、施設や施策担当部からも「健康ポイント単体でなく複数施策を絡めたポイントが良かった」「市民の行動変容が地元施設へ還元された」など、健康推進に加え、経済振興や市民の行動変容促進としての有用性を感じる意見も寄せられた。

実証のポイント利用場所は公共施設中心としたが、「税金や学校関連費など市のものすべてに使えると良い」と幅広い公共料金への適用を望む声をはじめ、民間事業者を含めた利用可能店舗の少なさが指摘された。また、スマホ利用を前提にしたことで高齢者のスマホ利用の難しさが浮き彫りとなったほか、特定の年代の利用率が低いという結果も見られ、ポイント活用施策の選定や付与・利用など活用方法を工夫して効果最大化や精度向上を図ることで利用を活性化することも重要な課題となる。

(2) システムの効果と課題

今回の実証では、デジタル金銭授受の将来像「ありがさまネットワーク」構想の効果と課題を小規模で検証するとの目的に則り、実証内容に合わせてポイント付与用アプリと地域通貨用アプリの2つのアプリを活用しました。既存アプリには、歩くとポイントが貯まる機能やクイズに参加したり、イベントに参加するとポイントが貯まる機能があり、「はじめてボランティア活動へ参加した」「クイズで奄美市についての知見を深めた」といった声などの効果を得ることができました。

一方で、市民からはアプリのインストールや利用者登録が「わかりにくい」との声が多く聞かれたうえ、108名ものモニター辞退者が発生したことは大きな課題です。アプリが2つに分かれたことで若いモニターからも「アプリ2種類は使いにくい」との声が寄せられたり、歩数がうまく連携されず正しくポイントが付与されなかったとの声が多かったり、事前に対処できなかったことも課題です。2つのアプリの情報を連携するシステムの構築や運用、複数部署間でポイント利用代金の精算を行うシステムなど技術的な問題に加え、運営主体の事務処理・利用者対応・利用施設対応に係る業務量にも影響するなど、運営上の課題も大きかったといえます。

(3) 総評

上記の検証を踏まえ、本実証事業の目的である市民共通ポイントのポイント付与と利用において、庁内横断的に施策を考慮して実施した本事業内容に対する市民の反応は、概ね良好という結果となりました。

一方で、運用におけるシステム設計や作業時の利便性、並びに効率化の面においては、より改善が望まれる結果となりました。また、スマホ活用のみというデジタル運用への抵抗も一定量見受けられます。

今後、奄美市と地域住民において協働を進める際には、本実証事業の結果を参考にして、より良い関係づくりを目指します。

第2章 実証事業の詳細データと地域通貨実現における課題

4. モニター参加・スマホアプリ利用状況・モニターの声

4-1. モニター参加者・スマホアプリ登録者数推移

(1) モニター数

■ 応募・当選者

募集人数(当初)	480	
申込人数(5/6時点)	481	名
内訳・当選者	459	名
・落選者	-5	名
・重複申込	-17	名
・6/1追加	25	名
・途中辞退	-5	名
・7/2追加	52	名
・7/25追加	4	名
・8/2追加	1	名
最終モニター数	536	名

- 市民のみの申込みでは、募集人数の480名に達しなかったため、市役所庁内に2度に渡って参加を呼びかけ、関係のある部署には依頼をし、参加者数を確保した。この影響がポイント利用の偏りに影響したと考えられる。
- 新聞社に取材依頼をしたことで当初の反応は良かったが、2つのアプリを入れることなどで参加者が減った印象が強い。

(2) ポイント付与アプリ(健康マイレージ) ポイント利用アプリ(地域Pay) 登録状況

健康マイレージ(貯めるアプリ)		
登録	423	名
未登録	112	名
地域Pay(使うアプリ)		
登録	379	名
未登録	156	名

(3) モニター参加・アプリ登録の総括

■ モニター募集

モニター募集は、「奄美だより5月号」「奄美市公式LINE」「市役所・公共施設掲示ポスター」の3つの媒体で、約1か月間のモニター募集を行いました。主に以下のような理由により、応募者は低調に推移しました。

- ほーらしゃ券のように毎年実施する施策ではなく初めての取組みで、認知されていなかった。
- モニター自身がまったく施策に参加しなければポイントはもらえないように、モニター自身の参加状況によって貯まるポイント数が大きく変化するため、ほーらしゃ券の「5000円分を3000円で販売」のような分かりやすい施策ではなかった。
- ポイント利用場所が公共施設中心で、民間店舗での利用が限定的だったため、買い物を念頭に考える市民には響かなかった。
- 「奄美だより」「奄美市公式LINE」「市役所・公共施設掲示ポスター」のみの告知にとどまり、ほーらしゃ券のように民間店舗で広く告知していなかったため、認知が広がらなかった。
- モニター募集人数が480名と少ないため、応募しても当選しないと考える市民が多かった。

そのため、新聞記事に掲載された翌日には、応募者数が大きく増加しました。消費者は、日常的に買い物はしますが、日常的に公共施設を利用するケースは稀であり、今回「応募者殺到」には至らなかったものの、今回のよう

な取り組みによって行政サービスや公共サービスで市民の接点を強化していくことは、市の施策の効果を上げるために重要な取り組みになるといえます。

■ スマホアプリ登録

今回の実証では、ポイントを貯めるアプリ「健康マイレージ」と、ポイントを利用するアプリ「地域 Pay」の2つのアプリをモニターにインストールしていただきました。これはできるだけ迅速に低コストで実証事業を実施し、QRコードを読み取るだけでポイント付与や利用が可能という市民も使いやすい環境をスピーディに整備するための工夫でしたが、2つのアプリを使い分ける必要があるため、スマホ初心者にはいきなりハードルの高い作業になったといえます。アプリそのものの登録方法についてわかりにくいとの声も聞かれました。（★-★問合せ内容ご参照）。

一方で、これまでスマホ教室で操作方法は習ったものの、実際に使いこなすには至っていなかったところ、今回の実証を機にスマホをよく活用するようになったとの声も聞かれ、今後の取り組みではアプリは1つとし、スマホに不慣れた市民にも分かりやすい操作性を確認する必要があると考えます。また、血圧や体重など、スマホにプレインストールされているアプリの情報を連携することで、さらに健康増進機能を高められるとのこともあり、分かりやすさに加えて機能向上も必要になるといえます。なお、実証は小規模でモニター数が少なく期間も短かったことで不正は発生しませんが、今後実用化する際には万全な不正対策を講じる必要があります。

4-2 ポイント付与結果

(1) ポイント付与数・付与者人数の推移と施策の内訳

日付	内容（歩数含む）	ポイント数	人数
6/1	モニター参加のみ	484,000	484
6/5	アンケート回答・免許返納	153,920	285
6/12	アンケート回答・袖購入・検診・起動ボーナス	88,168	325
6/19	アンケート回答・検診・起動ボーナス・クイズ	89,783	324
6/26	アンケート回答・検診・起動ボーナス・クイズ	93,510	323
7/3	アンケート回答・検診・起動ボーナス・クイズ・新規追加	136,068	367
7/10	アンケート回答・検診・起動ボーナス・クイズ	105,271	357
7/17	アンケート回答・袖購入・起動ボーナス・クイズ回答	98,783	351
7/24	クイズ回答・袖購入・起動ボーナス	81,826	338
7/25	モニター参加(追加)	3,000	3
7/31	アンケート回答・袖購入・起動ボーナス・クイズ回答	87,038	345
8/2	モニター参加(追加)	1,000	1
8/7	アンケート回答・起動ボーナス・クイズ回答	92,468	343
8/14	アンケート回答・起動ボーナス・クイズ回答	81,857	346
8/21	起動ボーナス・クイズ回答	92,569	362
8/28	検診・クイズ回答	113,673	337
9/4	クイズ回答・8月下旬アンケート	362,789	350
9/5-9/12	8月下旬アンケート	4,000	4
9/11	個別検診	800	2
9/18	8月検診	39,000	195
計		2,209,523	

(2) 施策別付与数、ポイント付与率

内訳	ポイント数	
モニター参加	540,000	24.4%
クイズ	579,200	26.2%
歩数ボーナス	362,350	16.4%
8月下旬アンケート	297,000	13.4%
初回アンケート回答	179,500	8.1%
検診	105,000	4.8%
当日の初回起動ボーナス	53,643	2.4%
施設利用	47,830	2.2%
大浜海岸清掃	21,000	1.0%
袖購入	15,000	0.7%
免許返納	9,000	0.4%
計	2,209,523	

(1) ポイント付与の総括

ポイント付与においては、健康増進に関する施策（ウォーキングの歩数によるポイント付与）を中心に、市政情報に関するクイズへの参加、公共施設の利用やボランティア活動への参加、各種検診を受診した方へのポイントなど、部署を超えて共通したポイントを付与することで、各施策への参加を促す目的で付与施策を選択しました。実際の付与においては、当初予定していたグラウンドゴルフ参加者のモニターを十分に募れなかったことや、アプリやスマホの機種によっては歩数が正常に反映されなかったがあたりするなど、運用面では課題があったものの、ポイントを貯め続けた皆様からは概ね良い反応が得られました。ただし、途中で断念した参加者もいたため、より話題性のある内容を盛り込むなど、工夫の余地があったと分析しています。

4-3 ポイント利用結果

(1) ポイント利用施設別ポイント利用額（6/1～9/30）

No.	デジタル共通ポイント利用額	合計			
1	しまバス本社営業所	63,300	15	あやまる岬観光公園	162,489
2	のせ文具	59,877	16	奄美市名瀬運動公園	49,730
3	株式会社 東京堂	286,059	17	奄美市笠利B&G海洋センター	600
4	整骨院プライド・PRIDEジム	11,600	18	奄美市太陽が丘体育館	400
5	アクアクラブ	16,618	19	マンガローブパーク	112,098
6	サンサンランド	291,589	20	奄美市立奄美博物館	620
7	カフェ 大ちゃん	409,948	21	宇宿貝塚史跡公園	0
8	アマホームPLAZA	2,130	22	奄美市歴史民俗資料館	310
9	奄美海洋展示館	44,897	23	奄美市立名瀬中学校屋内プール	16,200
10	奄美市老人福祉会館	3,276	24	みやまふれあいコンサート	5,500
11	奄美市観光交流施設三太郎の里	109,038	25	ふれ愛の湯	0
12	木工工芸 みどりの里	0	26	奄美まつり協賛会	155,938
13	奄美体験交流館	7,800	27	奄美市PTA連絡協議会	23,909
14	味の郷かさり	218,999	28	奄美市子ども会育成連合会	156,598
				合計	2,209,523

(2) ポイント利用の総括

ポイント利用においては、市の施策に参加することで貯まったポイントを、同じく市が関与する公共施設で利用していただくことで、現金の給付と納付の両方向の金銭授受をデジタル化することが重要な取り組みであり、ポイントが貯まる公共施設利用に加えて市役所や公共施設に入居するカフェや市が関与する産地直売所でも利用できる環境整備を行いました。しかし地域振興券や電子商品券など他の施策や民間事業者が営む金券類の利用場所との違いが浮き彫りとなり、「使える場所が少ない」との声が多く寄せられました。

モニターが少ないことで、利用窓口がありがっさまポイントの取り扱いに不慣れとなり、使える筈が使えなかったといったトラブルが発生する可能性を懸念しましたが、そのような事象の報告はほぼありませんでした。共通ポイントは様々な施策で貯めることができることから、利用者の増加と利用場所の拡大が実現すれば、順調に普及すると考えられます。

4-4 モニターの声

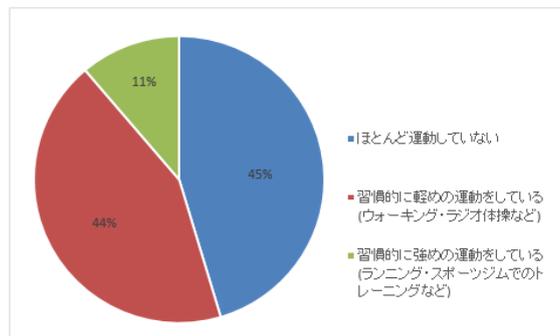
(1) 初回アンケート結果

今回の実証は施策に参加するとポイントが貯まり、そのポイントで行政サービスや公共サービスが利用できるという主旨を前面に打ち出しており、市民がどのような意識や目的で施策に参加しようとしているのかを知るべく、モニター登録時にアンケートを実施しています。特筆すべき内容は「2-1.市民における効果と課題」にサマリーとして記述済みであり、ここではご参考としてすべてのアンケート結果を掲載します。

- アンケート実施時期：モニター登録時（2024年6月下旬～7月中旬）※その後の追加登録者6名含む
- アンケート回答者数：357名
- アンケート実施方法：モニター登録を行った方に健康マイレージアプリのお知らせ機能で回答URLを送信
アンケートへの回答で1000ポイントを付与
- アンケート結果

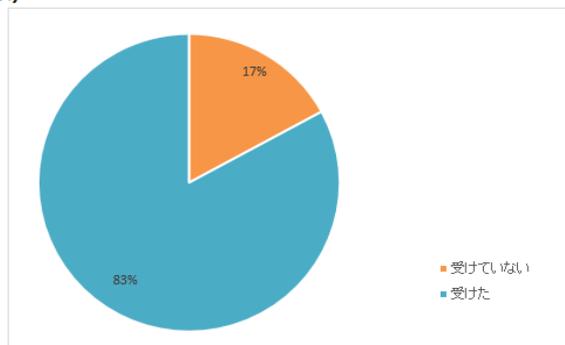
Q1. 普段どのくらい運動をしていますか？（1つ選択）

設問	件数
ほとんど運動していない	162
習慣的に軽めの運動をしている(ウォーキング・ラジオ体操など)	155
習慣的に強めの運動をしている(ランニング・スポーツジムでのトレーニングなど)	40



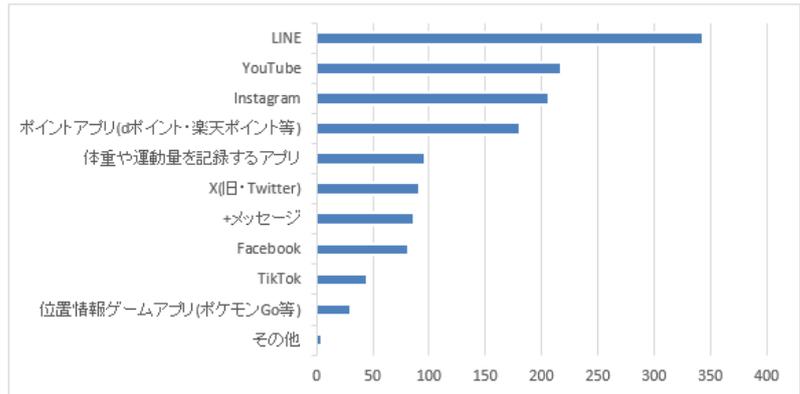
Q2. 昨年4月以降に健康診断を受けましたか？（1つ選択）

設問	件数
受けていない	61
受けた	296



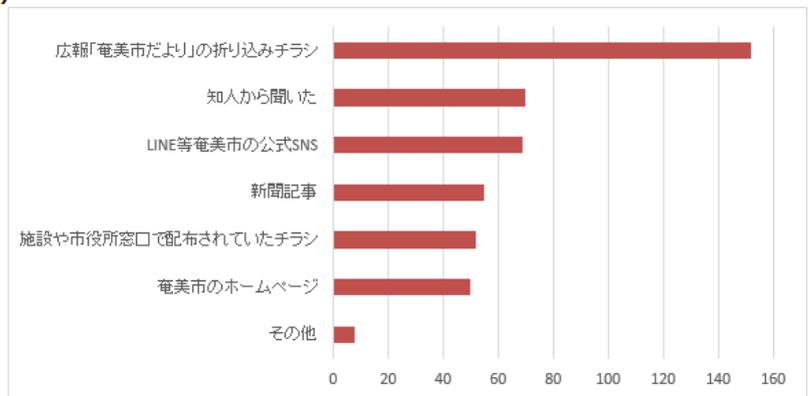
Q3. 日常的に利用しているスマホアプリを全て選択してください(複数選択可)

設問	件数
その他	5
位置情報ゲームアプリ(ポケモンGo等)	31
TikTok	45
Facebook	82
+メッセージ	87
X(旧・Twitter)	92
体重や運動量を記録するアプリ	97
ポイントアプリ(dポイント・楽天ポイント等)	181
Instagram	206
YouTube	218
LINE	343



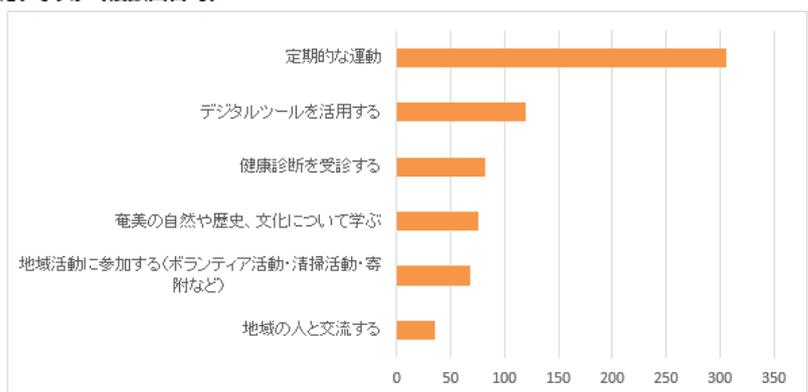
Q4. どちらでこの実証事業を知りましたか？(複数選択可)

設問	件数
その他	8
奄美市のホームページ	50
施設や市役所窓口で配布されていたチラシ	52
新聞記事	55
LINE等奄美市の公式SNS	69
知人から聞いた	70
広報「奄美市だより」の折り込みチラシ	152



Q5. 実証事業の参加を通して、どのようなことを習慣にしたいですか (複数回答可)

設問	件数
地域の人と交流する	36
地域活動に参加する(ボランティア活動・清掃活動・寄附など)	68
奄美の自然や歴史、文化について学ぶ	76
健康診断を受診する	82
デジタルツールを活用する	120
定期的な運動	306



(2) 終了アンケート

ポイント付与期間が終了する8月末の2週間前に、「8月下旬アンケート」として今回の実証に参加した効果や課題、感想について、モニターにアンケートを実施しました。特筆内容は「2-1.市民における効果と課題」にサマリーとして記述済みであり、ここではご参考としてすべてのアンケート結果を掲載します。

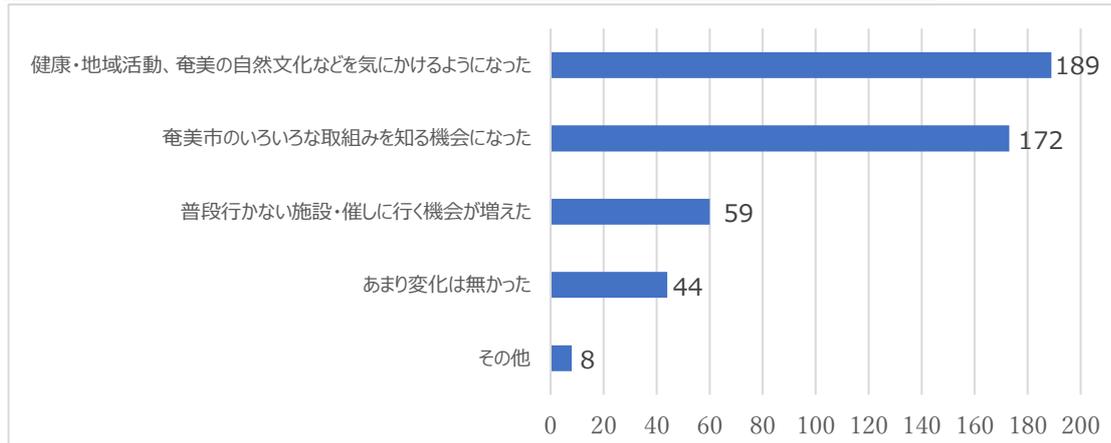
■モニター数：536名

…うちアプリ登録者数428名中296名がアンケート回答(回答率69%)
(モニター536名中108名は当選したが、辞退、アプリを登録せずに終わった)

■アンケート回答：296名

(20代:22名、30代:64名、40代:71名、50代:84名、60代:45名、70代:10名)

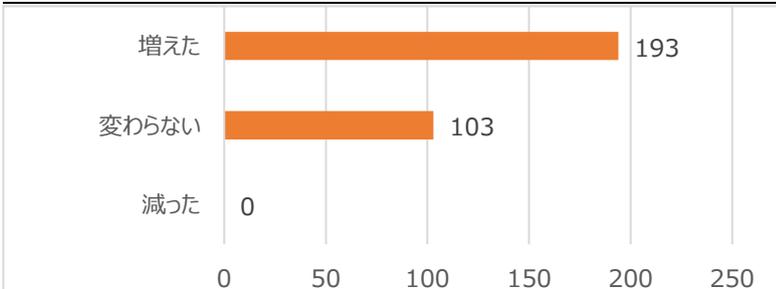
■ 設問 1. 今回の実証事業で生活に変化はありましたか？〔（複数選択可）〕



（その他と回答した人のコメント）

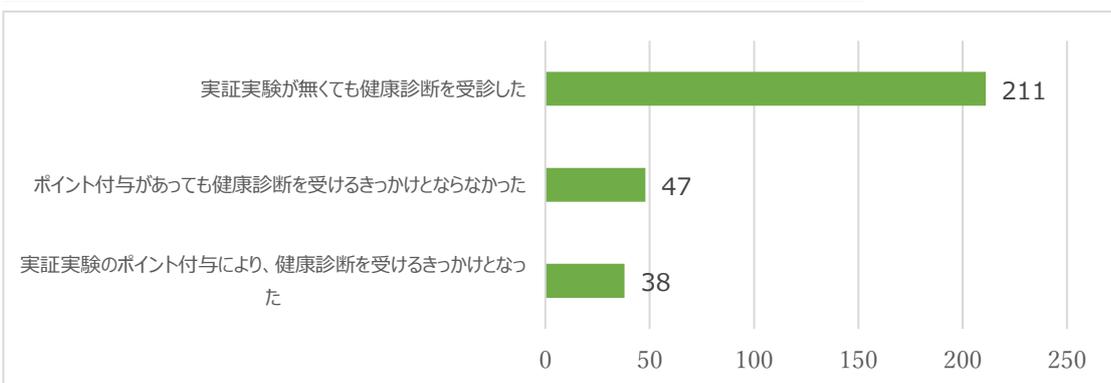
- ・歩く機会が増えた
- ・いつもより動くことに意識が向いた
- ・まだ行けていない
- ・自分が普段どれだけ歩いているのかを意識するようになった。
- ・市内をあちこち歩いて見て回ることができた
- ・毎日一万歩を目標にして今日まで 8 月 21 日まで続ける事ができています。妹夫婦も参加、切磋琢磨できました。ありがとうございます。
- ・健康を意識するようになり、歩く事で、体調が良くなりました。
- ・1 万歩を目標に休日も体を動かすことができました

■ 設問 2. 今回の実証期間に運動の機会は例年より増えましたか？



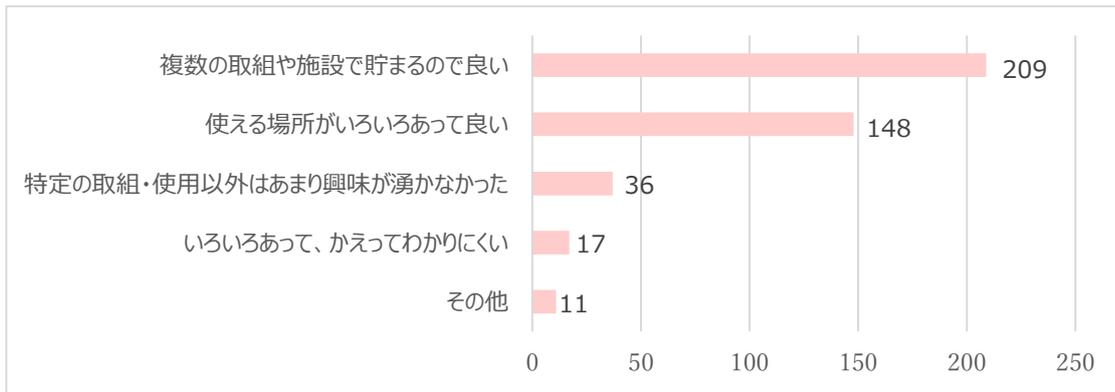
…アンケート回答者のうち 65%が「運動の機会が例年より増えた」と回答。

■ 設問 3. 今回の実証実験により健康診断を受ける機会となりましたか？



…アンケート回答者のうち 12%が実証実験のポイント付与が健康診断の受診のきっかけとなったと回答

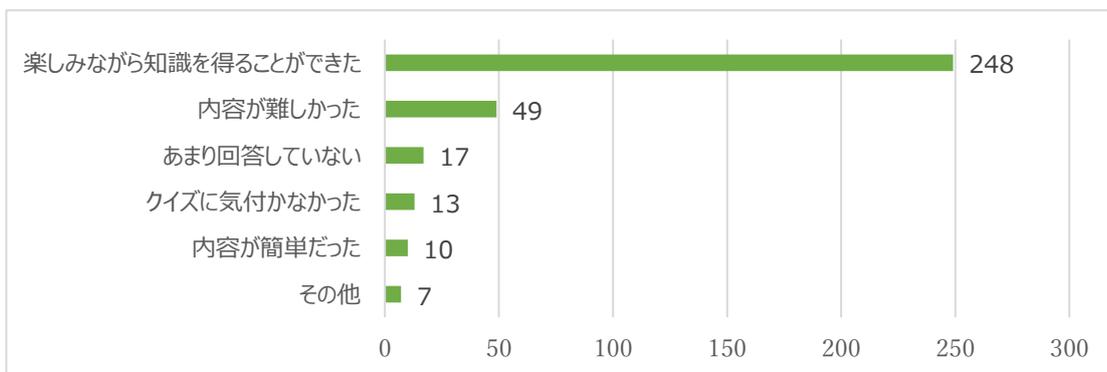
■設問4.健康づくりポイントや元気度アップポイントといった限定されたポイントではなく、奄美市の様々な取組において共通で貯まるポイントについて、どう感じましたか？〔（複数選択可）〕



（その他と回答した人のコメント）

- ・どのような取り組みがあったのか全く分からなかった。
- ・ポイントが使えるお店がもっと有ったらいい。
- ・使える場所をもっと増やしてほしい
- ・生活が忙しく、取り組みに参加する時間がなかった
- ・どこでポイントが使えるのか調べそびれました
- ・自分が利用できる所が少ない（自分が利用したい・できる所が殆どなかった）ので、もっと実用的な利用所があったらいいと感じた。
- ・ただ毎日歩数を登録しているだけで、よくわかってないです…
- ・せっかく貯めたポイントが使える施設が少ないと思います
- ・どこで貯まるのか使えるのかわからない
- ・次回があるなら、ポイントを使う貯める箇所を増やしてもらいたい。
- ・歩いて、ポイントが貯まるのが楽しかった。

■設問5.健康・文化・防災など、さまざまなクイズがありましたが、感想をお聞かせください。〔（複数選択可）〕

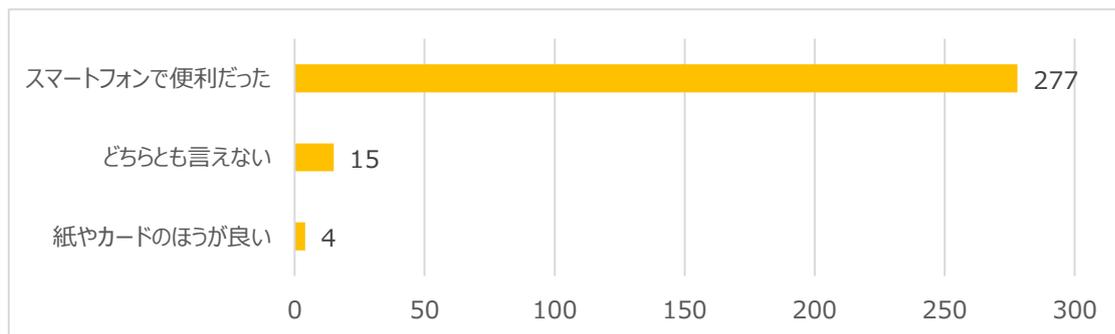


（その他と回答した人のコメント）

- ・奄美に対して、かなり勉強になりました。毎回、楽しみでした。0点でもポイント付与は、有り難かったです。
- ・知らなかった知識を増やせて良かった。
- ・特に文化。知らないことが多く、大変勉強になった。とてもいい取り組みだと思いました。

- ・興味もてる設問は少なかった。簡単すぎたり、これを知ってどうなるのか？というデータの数字だったり…中には良い問題もあったが、クイズにばらつきを感じた。
- ・健康に関するクイズで「フッ素洗口」はむし歯予防に良いという解答だったかと思いますが、安易にクイズに載せないでほしいと思います。理由は、ブラッシングを推奨している公教育において、劇薬指定のフッ化物を洗口液として使用することを、一般の方に肯定的に捉えられてしまうからです。クイズとして載せるのであれば、マイナス点(誤飲して気分が悪くなった、うがいをしないことでいじめにあった等)も知らせるべきではないでしょうか？過去にも公教育で集団接種(インフルエンザなど)で注射針の使い回しをしたことにより、肝炎に感染した薬害の事例もあります。フッ素の塗布や洗口は個人の判断で歯科医院で行うべきだと思います。
- ・当初クイズに気づかなかったが、職場の同僚に教えてもらった。

■設問 6.スマートフォンのアプリを利用することについて、感想をお聞かせください。



…アンケート回答者のうち 93.5%の方がスマートフォンで便利だったと回答。

■設問 7.ポイントを貯めることができたら良いと思う施設・活動がありましたらご記入ください。

(回答)

◇生涯学習

- ・講座受講：生涯学習講座、公民館講座、Schoo、ころぼん体操
- ・市民文化祭

◇健康

- ・ヨガやピラティスなど体を動かす店舗やジム、整体の利用。
- ・健康イベント、夏のラジオ体操、市の健康診断・特定検診
- ・各種運動施設(プールや体育館、グランドゴルフ場)
- ・医療施設(病院)、薬局、
- ・ウォーキング大会

◇日常生活

- ・スーパーやガソリンスタンド
- ・飲食店
- ・小規模商店来店時のポイント獲得
- ・なぜまち商店街の各店舗。

◇公共交通機関

- ・飛行機、船、バス、タクシーの利用

◇施設利用

- ・公園、児童センター、世界遺産センター、子育て支援施設、奄美海洋展示館、温泉施設、アマホーム PLAZA、市役所、図書館、博物館、奄美パーク、旧工業高校跡体育施設、観光施設、高齢者施設

◇イベント

- ・講演会
- ・夏祭りや音楽フェスタ、花火大会
- ・商店街ウォーキング、市民交流センターのイベント参加
- ・地域のイベントや催し物(奄美祭り)
- ・奄美の観光地めぐり

◇スポーツ少年団活動、地域移行の部活動

◇ボランティア活動

- ・地域のゴミ拾い活動、海岸清掃、環境美化活動、外来植物駆除活動、森林の清掃活動
- ・高齢者サポートボランティア
- ・献血
- ・集落活動

■設問 8.ポイントを使えたら良いと思う施設・店舗がありましたらご記入ください。

(回答)

◇飲食・ショッピング

- ・飲食店・レストラン：パン屋（むくむく、フランドール）、居酒屋、カフェ、ランチができる場所（満月、炭や、モス、焼肉店、居酒屋黒潮、ジョイフルなど）
- ・スーパー・コンビニ：タイヨー、イオン、Aコープ、泉ストア、グリーンストア、だいわ、島人 mart、小さな商店、コンビニ（ファミマなど）
- ・専門店・小売店：ニシムタ、かなめ文具、本屋(TSUTAYA、楠田書店、ブックス十番館)、オリジナルTシャツ店、薬局やドラッグストア

◇公共施設・サービス

- ・公共施設、スポーツ施設：プール、運動施設、公共施設内の売店、アマホームプラザ、体験交流館、太陽が丘運動公園、アクアクラブ、三儀山施設、スポーツ教室
- ・子育て支援施設
- ・市役所での支払い
- ・図書館
- ・郵便局
- ・病院・歯医者

◇交通・移動

- ・公共交通機関：バスやタクシーの利用料金、飛行機や船の運賃割引、航空会社のギフト券
- ・ガソリンスタンド

◇健康・ケア

- ・体のケア施設：ヨガ、ピラティス等
- ・温泉施設：山羊島ホテルのお風呂、体験交流館のお風呂
- ・ナイトツアー
- ・マリンレジャー

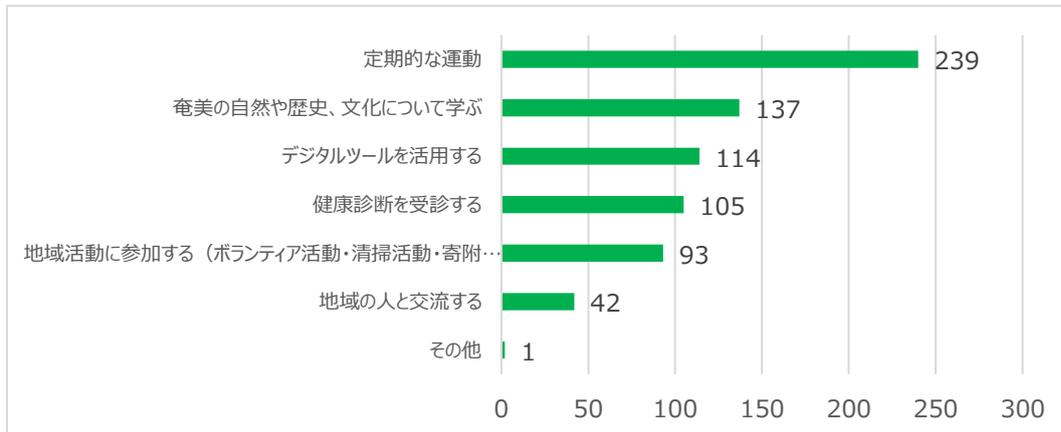
◇地域

- ・商店街・アーケード
- ・屋仁川のお店
- ・地場産の農海産物（味の郷かさり、ビッグツー、住用道の駅）
- ・笠利町内の施設（Aコープ笠利店、まーぐん広場、むさし屋）
- ・車がなくても行ける施設

◇その他

- ・映画館：ブックス十番館の映画館
- ・ホテル
- ・観光施設・お土産店：空港のお土産店や売店
- ・スポーツ用品店：スポーツ用品を扱う場所
- ・ほーらしゃ券の利用可能店舗と同じ店舗
- ・日用品店、文具店

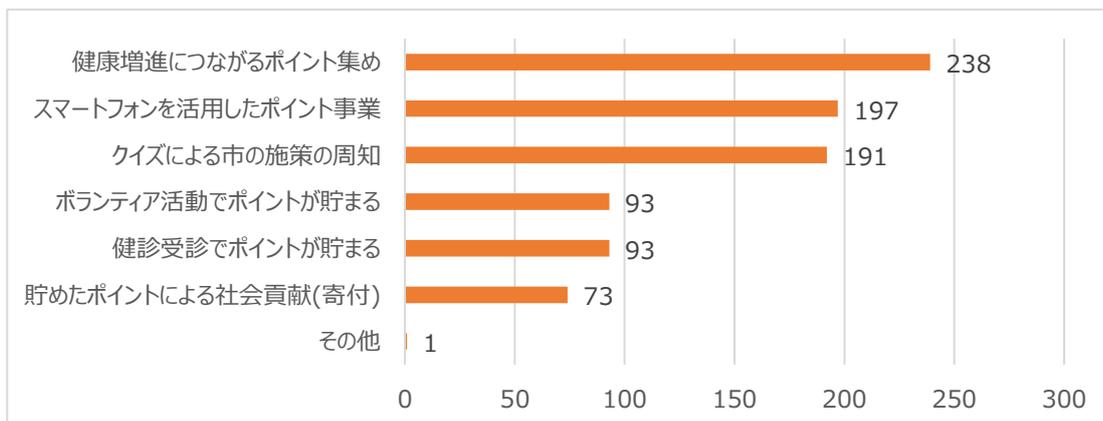
■設問 9.実証実験に参加して今後習慣化したいと思う事をお聞かせください。[（複数選択可）]



（その他と回答した人のコメント）

- ・歩数を気にかけるきっかけになったが、なかなか歩数を増やす取り組みには繋がらなかった。

■設問 10.今回の実証事業について、良かったと思う内容を選択してください。[（複数選択可）]



（その他と回答した人のコメント）

- ・順位が出るところ

■設問 11.その他、奄美市の今回の実証実験についての感想やご意見、スマートフォンやインターネットを活用して今後実施できたら良いと思うサービスや取組がありましたらご記入ください。

…コメントについては、151 件回答あり。

◇否定的な意見

- ・アプリの使いにくさ：アプリの設定や同期がうまくいかず、操作が難しい（30 歳男性、50 歳女性、40 歳男性）。

- ・ポイントの不正リスク: QRコードを不正利用できる可能性がある(30歳男性)。
- ・デジタル格差: スマホを使いこなせない人が多く、デジタルデバイスが問題(50歳女性、30歳女性)。
- ・アプリの反応遅延: データ送信に時間がかかり、ポイントの反映が遅れる(40歳男性、30歳女性)。
- ・歩数の自動反映がない: 歩数を手動で送信しなければならず、忘れてしまうことがあった(40歳男性、60歳男性)。
- ・アプリの互換性の問題: スマホ機種によってはアプリが正しく機能しなかった(50歳女性、40歳女性)。
- ・スマートウォッチとの連動不可: アプリが他のデバイスと連動しないため不便(50歳女性)。
- ・広報不足: 事業の認知度が低く、もっと広報が必要(30歳男性、70歳女性)。
- ・ポイント履歴の不明確さ: どのようにポイントが貯まったかがわからなかった(30歳女性、40歳女性)。
- ・利用店舗の少なさ: ポイントを使える場所が限られていて不便(40歳女性、30歳男性)。

◇前向きな意見

- ・運動機会の提供: 運動不足だったが、今回の事業で意識して運動をする機会が増えた(30歳女性、40歳女性、60歳男性)。
- ・ポイントでのモチベーション向上: ポイントを貯めることが運動の励みになった(40歳女性、50歳男性、60歳女性)。
- ・クイズが楽しかった: クイズを通じて知識が深まり、楽しく参加できた(40歳女性、60歳女性、30歳女性)。
- ・健康意識の向上: ウォーキングや日々の健康管理に対する意識が高まった(60歳男性、40歳男性)。
- ・地域への関心が深まった: 地元の自然や文化を再発見できた(60歳男性、30歳女性)。
- ・家族とのコミュニケーション: 家族で取り組むことで話題が増え、家族間のコミュニケーションが深まった(40歳男性)。
- ・自己管理の向上: 体重や健康データをアプリで管理しやすかった(50歳女性、40歳男性)。
- ・再参加の希望: 今後も同様の事業があれば積極的に参加したい(30歳女性、40歳女性)。
- ・楽しみながら健康改善: 隙間時間を活用し、楽しく健康を意識するようになった(60歳男性)。
- ・地域ポイントの活用: ポイントを地元のお店で利用できたことに満足(30歳女性)。

5. ポイント付与／利用窓口・施設の取り扱い結果

5-1 ポイント付与結果

(1) 施策別 付与ポイント数

(男女別)

合計 / 付与ポイント 付与施策	性別		総計
	女性	男性	
モニター参加	334,000	206,000	540,000
初回アンケート回答	112,000	67,500	179,500
8月下旬アンケート回答	184,000	113,000	297,000
ウォーキング歩数	193,129	169,221	362,350
健康や奄美市に関するクイズ	373,000	206,200	579,200
胃がん検診	4,400	2,600	7,000
肝炎ウイルス検診	2,400	1,000	3,400
骨粗しょう症検診	4,800		4,800
子宮頸がん検診	21,200		21,200
歯周病検診	800	600	1,400
前立腺がん検診		3,200	3,200
大腸がん検診	6,600	2,800	9,400
特定検診	13,600	5,600	19,200
乳がん検診	11,200		11,200
肺がん検診	7,600	4,000	11,600
腹部超音波検診	9,000	3,600	12,600
免許返納	9,000		9,000
大浜海岸清掃	10,500	10,500	21,000
本場奄美大島紬購入(過年度)	15,000		15,000
PRIDE	10,750	750	11,500
アクアクラブ		6,250	6,250
奄美市名瀬運動公園(運動施設)	3,350	8,800	12,150
奄美市名瀬運動公園(プール)	1,800	3,700	5,500
名瀬中学校屋内温水プール	750	100	850
奄美市立奄美博物館	1,900	600	2,500
奄美市老人福祉会館	1,250		1,250
奄美市歴史民俗資料館	700	300	1,000
宇宿貝塚史跡公園	600	200	800
奄美市笠利B&G海洋センター	1,250	450	1,700
奄美市太陽が丘総合運動公園	200	50	250
あやまる岬多目的広場	90		90
ふれ愛の湯(ふれ愛の郷)		700	700
奄美体験交流館(入浴施設)	1,100	1,850	2,950
マングローブパーク	150	90	240
木工工芸みどりの里	100		100
当日の初回起動ボーナス	33,604	20,039	53,643
総計	1,369,823	839,700	2,209,523

(年代別)

合計 / 付与ポイント	年代							
付与施策	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	総計
モニター参加	40,000	130,000	137,000	125,000	76,000	27,000	5,000	540,000
初回アンケート回答	12,000	41,500	44,500	48,000	26,000	7,500		179,500
8月下旬アンケート回答	22,000	64,000	72,000	84,000	45,000	10,000		297,000
ウォーキング歩数	19,997	65,165	82,501	112,357	64,770	17,560		362,350
健康や奄美市に関するクイズ	35,900	120,300	137,300	161,700	94,000	29,800	200	579,200
胃がん検診		200	1,600	1,800	2,000	1,200	200	7,000
肝炎ウイルス検診		1,200	1,000	600	600			3,400
骨粗しょう症検診		1,000	1,000	1,400	1,400			4,800
子宮頸がん検診	1,000	6,400	5,600	4,200	3,000	1,000		21,200
歯周病検診			400	800	200			1,400
前立腺がん検診			200	1,200	1,000	800		3,200
大腸がん検診		600	1,600	2,200	3,200	1,600	200	9,400
特定検診	400	1,200	2,000	3,200	6,400	5,600	400	19,200
乳がん検診		600	4,000	3,400	2,200	1,000		11,200
肺がん検診		800	2,800	2,600	3,600	1,600	200	11,600
腹部超音波検診		1,000	3,000	3,200	3,400	1,800	200	12,600
免許返納					3,000	6,000		9,000
大浜海岸清掃	1,000	3,000	3,500	5,000	5,500	3,000		21,000
本場奄美大島袖購入(過年度)			3,000	12,000				15,000
PRIDE		1,150	6,000	4,350				11,500
アクアクラブ		2,150	4,100					6,250
奄美市名瀬運動公園(運動施設)	450	2,000	2,500	1,150	6,050			12,150
奄美市名瀬運動公園(プール)	1,000	50	1,500	1,150	1,800			5,500
名瀬中学校屋内温水プール		250	600					850
奄美市立奄美博物館		200	1,200	300	600	200		2,500
奄美市老人福祉会館					1,250			1,250
奄美市歴史民俗資料館			300	300	200	200		1,000
宇宿貝塚史跡公園		100	100	200	200	200		800
奄美市笠利B&G海洋センター		600	500			600		1,700
奄美市太陽が丘総合運動公園			50	200				250
あやまる岬多目的広場						90		90
ふれ愛の湯(ふれ愛の郷)		700						700
奄美体験交流館(入浴施設)		950	200	1,550	250			2,950
マングローブパーク			30		30	180		240
木工工芸みどりの里	100							100
当日の初回起動ボーナス	2,826	9,384	12,822	17,281	9,000	2,325	5	53,643
総計	136,673	454,499	532,903	599,138	360,650	119,255	6,405	2,209,523

(2) クイズの内容とポイント付与数

配信日	内容	回	担当課	回答数
6/9	健康	1	健康増進課	240
	環境(ごみ分別等)	1	環境対策課	248
6/16	健康	2	健康増進課	205
	文化	1	文化財課	216
6/23	健康	3	健康増進課	
	デジタル	1	デジタル戦略課	
6/30	健康	4	健康増進課	
	文化	2	文化財課	
7/7	健康	5	健康増進課	
	遺産	1	世界自然遺産課	
7/14	健康	6	健康増進課	
	環境(ごみ分別等)	1	環境対策課	
7/21	健康	7	健康増進課	
	防災	1	総務課	
7/28	健康	8	健康増進課	
	遺産	2	世界自然遺産課	
8/4	健康	9	健康増進課	
	文化	3	文化財課	
8/11	健康	10	健康増進課	
	環境(ごみ分別等)	1	環境対策課	
8/18	健康	11	健康増進課	
	防災	2	総務課	
8/25	健康	12	健康増進課	
	文化	4	文化財課	

5-2 利用場所別ポイント利用結果

(1) ポイント利用場所別 利用ポイント数の推移

No.	カテゴリー	デジタル共通ポイント利用額	6月利用	7月利用	8月利用	9月利用	合計
1	運動施設	あやまる岬観光公園(グラウンドゴルフ)	0	0	0	0	0
2	運動施設	マングローブパーク(グラウンドゴルフ)	0	1,500	2,500	0	4,000
3	運動施設	奄美市名瀬運動公園(運動施設)	1,900	1,810	2,130	11,670	17,510
4	運動施設	奄美市名瀬運動公園(プール)	1,280	4,270	430	26,240	32,220
5	運動施設	奄美市立名瀬中学校屋内プール	1,510	2,540	5,000	7,150	16,200
6	運動施設	奄美市笠利B&G海洋センター	300	300	0	0	600
7	運動施設	奄美市太陽が丘体育館	0	300	0	100	400
8	温浴施設	奄美体験交流館	1,560	520	1,560	4,160	7,800
9	温浴施設	ふれ愛の湯	0	0	0	0	0
10	スポーツジム	整骨院プライド・PRIDEジム	120	360	0	11,120	11,600
11	スポーツジム	アクアクラブ	3,345	4,125	4,298	4,850	16,618
12	カフェ・レストラン	カフェ 大ちゃん	24,160	53,200	73,780	258,808	409,948
13	カフェ・レストラン	あやまる岬観光公園(みしょらんカフェ)	6,370	3,900	15,680	136,539	162,489
14	カフェ・レストラン	マングローブパーク(レストラン)	5,850	11,200	7,367	63,540	87,957
15	産直施設	奄美市観光交流施設三太郎の里	4,260	10,490	12,682	81,606	109,038
16	産直施設	味の郷かきり	2,291	23,101	26,655	166,952	218,999
17	その他施設	アマホームPLAZA	0	0	1,420	710	2,130
18	その他施設	奄美市老人福祉会館	0	400	2,000	876	3,276
19	その他施設	木工工芸 みどりの里	0	0	0	0	0
20	博物館・資料館	奄美市立奄美博物館	310	310	0	0	620
21	博物館・資料館	宇宿貝塚史跡公園	0	0	0	0	0
22	博物館・資料館	奄美市歴史民俗資料館	310	0	0	0	310
23	施設内売店	奄美海洋展示館(売店)	1,650	8,222	12,820	22,205	44,897
24	施設内売店	マングローブパーク(売店)	625	3,118	5,627	10,771	20,141
25	文房具店	サンサンランド	2,890	3,539	22,355	262,805	291,589
26	文房具店	株式会社 東京堂	6,743	7,914	24,327	247,075	286,059
27	文房具店	のせ文具	1,474	320	5,003	53,080	59,877
28	その他	しまバス本社営業所	800	10,200	8,300	44,000	63,300
29	その他	みやまふれあいコンサート	0	5,500	0	0	5,500
30	寄付	奄美まつり協賛会	0				155,938
31	寄付	奄美市PTA連絡協議会					23,909
32	寄付	奄美市子ども会育成連合会					156,598
		合計	67,748	157,139	233,934	1,414,257	2,209,523

(分類ごとの集計) ※寄付を除く

カテゴリー	利用件数
カフェ・レストラン	843
スポーツジム	97
その他	33
その他施設	20
運動施設	95
温浴施設	15
産直施設	224
施設内売店	72
博物館・資料館	3
文房具店	353
総計	1755

カテゴリー	ポイント額
カフェ・レストラン	660,394
スポーツジム	28,218
その他	68,800
その他施設	5,406
運動施設	70,930
温浴施設	7,800
産直施設	328,037
施設内売店	65,038
博物館・資料館	930
文房具店	637,525
総計	1,873,078

5-3 加盟店の声

(1) 加盟店アンケート結果

1. 回答課

20 事業所回答（未回答：歴史民俗資料館、老人福祉会館）。

2. 実証事業へのご参加について

選択肢	回答
同様の施策について、今後も機会があれば参加したい	19
同様の施策について、今後の参加は見送りたい	1

3. 参加して良かったと思う点【※複数回答可】（複数選択可）

選択肢	回答
スマートフォンによる施策でも問題なく運用できることがわかった	7
モニター参加者とコミュニケーションがとれた	7
モニター参加者による売上が増えた	7
モニター参加者の来店が増えた	5
特になし	2
ポイント利用により現金の取扱業務が楽になると感じる	1
その他	1

（その他の意見）

- ・利用者がいなかった

4. 参加して改善してほしい点について【※複数回答可】

選択肢	回答
本実証実験の参加人数が少ない	7
本実証事業の告知方法について	6
本実証実験の実施期間が短い	4
特になし	4
ユーザーが利用ポイントを入力する方式	3
その他	2
モニター参加者からの問い合わせ対応	2

（その他の意見）

- ・現金との併用ができない
- ・Wi-Fi 設備が無く、ポケット Wi-Fi も足りず、売上管理が煩雑になった。

5. モニター参加者からの意見について

選択肢	回答
本施策に対する前向きな意見を聞くことがあった	6
ポイントの付与方法・利用方法について問合せがあった	4
本施策に対する後ろ向きな意見を聞くことがあった	2
特になし	7

6. その他、ご意見があればご記入をお願いします。

- ・使用できる店舗が少ない。使用できる店舗を広げられたらいいと思います。
- ・利用者も問い合わせ等もゼロでした。
- ・シニアで使用される場合に少し時間がかかる。
- ・利用者、取扱件数自体少なかったです。
- ・グラウンドゴルフ利用のお客様はスマートフォンによる参加は難しいのか、利用される方は少なかったです。
- ・本実証事業の告知があまり知らない人が多く利用者も少なかった
- ・Wi-Fi 設備などインフラを整えた状態にしてほしい。
- ・地理的な事もあり電波の状況が悪いことがあり、利用される方が時間がかかっていました。
- ・若い方の利用が少なく感じている。幅広い世代の利用に向けて改善してほしい。
- ・一過性ではなく継続することで利用者が必ず増えると考えます。
- ・次回があれば現金併用を可能にしていきたいです。

6. 庁内各部の実証対応結果

6-1 施策担当部門の実証参加結果

庁内向けアンケート結果

1. 回答課

今回の実証事業の協力部署、14 課中 11 課 16 名より回答（未回答：高齢者福祉課/細観光課/笠利地域教育課）。

課	回答
いきいき健康課	2
学び・スポーツ推進課	2
笠利産業振興課	2
健康増進課	2
文化財課	2
環境対策課	1
国保年金課	1
任用産業建設課	1
任用地域教育課	1
世界自然遺産課	1
総務課防災危機管理室	1
合計	16

未回答：高齢者福祉課/細観光課/笠利地域教育課

2. 本実証実験の施策について、良かったと思う点（複数選択可）

選択肢	回答
スマートフォンを利用した実証実験	12
健康ポイント事業(単体)だけでなく、他部門の施策も絡めたポイント事業の実施	8
実証実験のポイント付与施策と、その付与ポイント数	4
実証実験のポイントを利用できる施設や施策	3
実証実験の期間	3
実証実験の参加人数	2
特になし	2

3. 本実証実験の施策について、改善が必要だと思った点（複数選択可）

選択肢	回答
実証実験のポイントを利用できる施設や施策	7
実証実験のポイント付与施策と、その付与ポイント数	7
実証実験の参加人数	5
健康ポイント事業(単体)だけでなく、他部門の施策も絡めたポイント事業の実施	4
スマートフォンの利用に限った実証実験	2
実証実験の期間	2
その他	1
特になし	1

(その他の意見)

・実証開始直前にいきなり端末と対応依頼が来た。何を実証したい実験なのか・どういった実証実験なのかといった説明もなく、現場としては言われた通りに対応をしたものの、ほとんど利用者がいなかった。実際には使用しなかったが、いちいちタブレットを使うのは面倒。各施設のインターネット端末で処理できればいいですね。

4.施設担当部署の方はこちらもご回答ください。[※ポイントが利用できる施設の担当部署の方]

選択肢	回答
本番を実施する際は前向きに検討したい	10
その他	3

(その他の意見)

- ・指定管理者の意向を確認したうえで検討したい
- ・「本番」の内容によると思います。
- ・費用対効果を検証して検討したい

5.その他ご意見

- クイズをしっかりと作ったつもりでしたが、他課の問題では色々多彩で、中にはやっつけ感を感じるものもありました。問題数の違いもあるとは思いますが、どの世代向けのものか・難易度・文字数の目処・画像有り無しなど、大枠でのルールでもあれば統一感が出てくるのではと感じました。
- ①今回の実証実験では（たしか）アンドロイドスマホでは参加できなかったと思います。そもそも、年配者にはハードルの高いポイント制度だったり、公平性の観点から疑問には感じます。
②参加者アンケートで、奄美の文化や自然についてのクイズがあったと知りました。クイズの内容を参加事業者から出してもらい、その事業者（施設・店舗等）でもその質問に絡めた取り組みをするなどの展開も面白いかと思いました。情報の出し方を工夫すれば、宇宿貝塚にももっと実証実験利用者が来たかもしれません。
③今回の取り組みにも関係しますが、宇宿貝塚にさっさとフリーwifiを導入してくれたらなあ。
- 自主的な取り組み（運動・健康診断・クイズ参加）が、ポイントを生成しそれが地元施設へ還元されるのは大変有意義だと実感しました。私もいちモニターとして、利用者アンケートにも多数意見あった通り、日常で「歩く」ことを意識して過ごすことができ、運動量が向上しました。実施中、友達や家族に勧めたり周知したりしていましたが、認知度が低いように感じたので、奄美市からの宣伝はもちろん、施設から市民への宣伝力も上げていけたらと思いました。
- 利用者が多かった施設は、ポイントのおかげで売上が伸びたと喜んでいました。
- 将来的にはデジタルほーらしゃ券との統一などの検討が必要。
- レジ周りに奄美市発行の何種類もの QR コードがあると混乱する恐れがある。
- アプリ当選したが、アプリの登録せず辞退した方が 108 名と多く感じる。登録方法や時期等検討が必要かと思う。当選者へリマインド方法など
- とても良い取り組みだったと思います。利用者アンケートを拝見しましたが、概ね好意的な意見だったと感じました。否定的な声は大きく聞こえてしまっていますが、改善しながら継続して行うことが重要だと思います。ぜひ継続しましょう！
- 「ふれ愛の湯」は、ポイラー修繕が長期となり、実証実験期間の参加ができなかったため、積極的な協力ができず申し訳ございません。

6-2 その他庁内の課題・意見

総務部協議結果から抜粋

- 本実証事業は健康増進という観点から高齢者の利用を見込んでいたが、募集段階から 70 代以上の応募が明らかに少なく、高齢者のことを配慮すると同様の事業継続は難しい。
- ソフトウェア使用に係る費用や、その他委託料等の確保が困難である。
- 本格的に実施する場合の運用主体が定まっていない。
- 地元金融機関等の動向を踏まえながら、事業の見直しや実施の可能性について検討を行う。

7. 金銭授受業務デジタル化の注意点と実現の方向性

7-1. 金銭取扱業務デジタル化について

(1) 行政の金銭取扱業務に関する主な注意点・課題

現在、行政サービスや公共サービスの利用で生じる各種手数料や利用料の支払いは現金払いが基本であり、現金を受け渡すたびに帳簿と突合したり、紛失・盗難・横領などから守るために金庫に入れたり警備をつけたりといった現金管理コストも生じています。デジタルで管理すれば現物を数える必要も数え間違いや紛失・盗難・横領の心配もなくなります。

- 様々な公共施設で、数百円や数十円の利用料や手数料を受け取っており、大量の硬貨の運搬や紛失・盗難・横領対策、受け渡しの度に生じる現金と帳簿の突合作業など、現金の取り扱いに関する業務負荷や付随コストが生じています。
- 複数部署の複数の施策ごとに振興券や利用券、ポイントやクーポンが活用されており、部署毎、施策毎に事務委託費や振込手数料、郵送費や運用管理などのコストや業務負荷が重複発生しています。
- 全国の金融機関で振込手数料や口座振替手数料が2～10倍になるなど大幅な値上げが行われており、今後は金融機関に支払う手数料が大きな負担となります。

(2) キャッシュレス決済サービスに関する主な注意点・課題

税公金や水道料金、施設利用料や各種手続きの手数料などで、クレジットカードやスマホ決済サービスなどのキャッシュレス決済サービスによる納付が可能となっていますが、キャッシュレス決済サービスには以下のような課題があります。

- 奄美市の市税や水道料金、各種手数料の納付において、キャッシュレス決済が利用でき、市民からシステム利用料も徴収しているが、加盟店手数料の負担が発生している。
- 多くの自治体が、地域の消費を活性化するためにスマホ決済の応援キャンペーンを開催しています。その際、市内での買い物に対して20%や30%のポイントを提供します。しかし、これらのポイントは自治体予算から出され、全国に広がる決済サービスの店舗で使えるため、「域外流出」の問題が生じています。
- 「域外流出」を防止するために、一部の自治体は地域専用の決済サービスを設立しています。これにより、自治体が提供するポイントは地域内の店舗でのみ使用できます。ただ、大きな特典を設けなければ利用がなかなか広まらず、その維持は困難です。さらに、毎年大きな特典を続けることが難しいと、利用が下がり自治体経営に影響が出るかもしれません。
- スマホ決済や告知物のQRコードの上に偽のQRコードを貼る不正が増えており、これによって売上金や個人情報の盗難、さらにはマルウェアによる情報窃取が行われています。そのため、店頭でのQRコードを用いた決済には、セキュリティ対策が必須となっています。

7-2. 共通ポイントによる課題と安全な地域通貨の実現

(1) 行政の金銭取扱業務に関する主な課題

7-1(1). 行政の金銭取扱業務に関する主な注意点・課題に列挙した課題を解決するとともに、地域の様々な金銭類の受け渡しをデジタルでできる将来像を「ありがさまネットワーク」として図表-1 に整理しました。しかし最初から「地域通貨」を発行することはリスクが大きいと考えられ、まずは複数施策で共通利用できる「共通ポイント」として「ありがさまポイント」を小規模で発行して使ってみることで、効果検証と課題抽出を行いました。本事業で見えた課題と、地域通貨実現に向けた流れについて以下にまとめます。

- 「地域通貨」や「振興券」を購入する必要なく平等に、市の活動に協力したり、施策に参加したりすることで、行政サービスや公共サービスの納付や物品購入に使える価値をデジタルで給付し、同じデジタルのまま納付に使える仕組みとするために「ポイント」を選択しましたが、スマホ利用の段階で利用する市民に偏りがあり、無料でポイントを付与されるにも関わらず参加希望者が想定より少なかったため、デジタル機器を使った取組を推進するためにはよりメリットを訴えたり、多くの方が使えるようシンプルなシステムを構築する必要があります。
- 部署ごと、施策ごとに予算を確保し、それぞれが発注先に委託手数料を支払って、バラバラのポイントを付与・利用するのではなく、複数施策で共通利用できる「共通ポイント」にすることで、健康づくり施策で貯めて物品を購入したり、海岸清掃で貯めたポイントをこども会に寄付したりするなど、部署をまたがる施策の間で連携を図った。しかし、作業に係る運用主体が決められておらず、デジタル戦略課が事務手続き・データ連携・問い合わせ対応をすることになったことが課題となりました。

(2) 地域通貨の実現に向けて

- 市民の多くが利用し、市内の多くの施設や店舗で使えるようになったうえで、「地域限定サービス」や「特別メニュー」などの特典を提供すれば、市民や観光客が事前に現金を払ってポイントを購入する理解が得られてくると考えられます。この体制が構築できると、市役所と市民や事業者の間、市民と事業者の間のみならず市民同士でもデジタルで金銭授受できる持続可能な「地域通貨」実現の可能性が見えてきます。